多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

平成 23 年　9 月　4 日

派遣者氏名（専門分野）	茨城　充　　（文学環境論）

派遣期間	平成 23 年　8 月　23 日　～　平成 23 年　9 月　2 日

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
フランス	パリ	フランス国立図書館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

今回主に私たちが研究していた場所は、BNF フランソワ・ミッテラン館の中でも一般に開放されている haut-de-jardin ではなく、研究者が利用する rez-de-jardin であった。
そのため、ここの利用は若干申請が複雑で時間がかかった。なぜなら、まず利用申請に必要な書類として、

1. パスポート
2. ATTESTATION（指導教授のサイン）
3. BNF 登録用紙（事前にパソコン入力したものをネットから送ることも可能）
4. 在学証明書（今回は英文）

の４つを用意する必要があり、さらに自分が何故 BNF で研究したいのかということをインタビュー（審査）において図書館員に証明しなければならないからである。このインタビューに失敗するということがあるのかは分からないが、今回はメンバー全員が無事利用を許可された。
また、BNF の利用は有料で、利用回数によって料金を支払うことになる。rez-de-jardin の場合 3 回、15 回、年間パスという３種類があり、学生であれば学割が効く。私たちは日程の関係で 15 回を選ぶことになったが、留学している先輩の話を聞いたところ、実際 15 回と年間パスの料金はさほど変わらなかった。（15 回は 25 ユーロ）

次に利用方法についてであるが、BNF で文献調査等を行う場合、必ず自分の席を確保する必要がある。この席は図書館に設置されているパソコンから予約することができるが、事前にネットから確保しておくことも可能である。今回は図書館がかなり混雑している時期であったため、申請した初日に残り約一週間分の席を全員が確保するということができず、それぞれがまめにパソコンにアクセスして席を探すという状況であった。とは言っても、席には当日分のものもいくつか用意されているようで、開館時間に合わせて行けば席は取れるようである。

無事席を確保することができたらいよいよ入館であるが、そのためには入口カウンターで必要な荷物を透明なカバンに入れ替えなければならない。もしここで入れ忘れたものがあると後から取りに戻らなければならないが、このカウンターと席とが意外と距離があって面倒になるため気をつけた方がよい。
研究者用のフロアは分野によっていくつか分かれており（文学、地理、経済など）、開架図書を見るのであれば自分の分野のところに行ったほうが資料を探しやすいがが、そうでなければど

この分野の席を利用しても問題ない。

本の利用は基本的に設置されているパソコンから予約を行うが、これも席の予約と同じで、自宅のパソコンからの事前予約も可能である。１日１５冊まで借りることができ、本が届いたら席にある緑のランプで知らせてくれる。また、BNF の自分のアカウントページから本が届いているかを確認することも可能である。

コピーは若干面倒で、1 枚につき 30 サンチームという値段も高いが、館内に数カ所しかないコピー室で図書館員に頼まなければならないため、ページ数が多い場合や、待っている人が多い場合はかなり時間がかかる。さらに、コピーには制限があり、基本的に 1 冊の 10 パーセントまでしかできない。しかし、実際のところこれは図書館員によって差があり、人によっては半分までコピーしてくれることもある。また、図書によっては傷みのよってコピーできないもの、コピーするために許可を得なければならないものもあるため注意が必要である。なお、無断での図書の写真撮影は禁止されている。

もし、途中昼食等でいったん外に出るような時は「一時退室」をしたいと言えばよい。この場合、借りている本を図書館員のいるカウンターに持って行かなければならないので若干面倒であるが、一度の退出で２時間まで外出可能である。
帰る時は、もし次の日にまた来るのであれば借りている本を確保しておいてもらうことができる。ただし、そのためには席をとっておく必要があるため、場合によっては確保してもらうことができない、ということもあり得る。

以上が BNF の主な利用方法である。一般の図書館よりも申請や利用が複雑であるため最初は戸惑うことも多かったが、その図書の充実さから、フランス関係の資料を集めるならば BNF は間違いなく一度は行かなければならない場所であると実感した。